

2月25日、笠松中学校屋内運動場で、第10回「道徳のまち笠松」のつどいを開催しました。今年度は、道徳のまちづくり条例施行満10年を記念し、講師に日本サッカー協会最高顧問の川淵三郎氏をお招きし、約400人の参加者が集う会となりました。

つどいは、2部構成で行われ、第1部では、広江町長の挨拶の後、第4回“かさまつ いいね”写真展入賞者の表彰、「道徳のまち笠松10年のあゆみ」の紹介をしました。

第2部では、「夢があるから強くなる」という演題で、川淵三郎氏から講演をしていただきました。自らの体験をもとにしながら、「夢に向かって進むことが大切であり、それによって道が拓かれる。」と話されました。

特に、深く関わってこられたサッカーの話を始め、Jリーグ開設時やワールドカップ招致に関する課題や問題の克服、バスケットボール協会の問題の解決など、周りからはとても困難で大変だと思われることにも、明確なビジョンをもち、時には大胆に、時には緻密に、時には強引に、時には柔軟に立ち向かってきたと話されました。また、日本サッカー協会の心のプロジェクトの取り組みの話は、「道徳のまち笠松」にも関わる内容であり、道徳のまちづくり推進に心強さを得ることができました。最後に、笠松町には、発展する余地が十分あり、目指す方向に向かって、努力を続けるとよいと締めくくられました。

川淵氏の講演をお聞きし、参加者の皆さんは、個々に生きるエネルギーを得られたと思います。また、「道徳のまち笠松」が次の区切りの10年を進めるにあたり、大きな力を得ることができました。

新しい年度を迎え、「道徳のまち笠松」のさらなる推進に、町民の皆さんの活動参加、支援、協力をお願いします。



興味深い講演内容に引き付けられる参加者の皆さん

かさまつの民話「昔むかし」

うたれ坊⑥

「打っておくれよ…。罪のつぐないをしたいのじゃ。みんなを苦しめたこの私。私の身体と私の心。罪障消滅。罪障消滅。」

男の合掌につられて、二人は木像を打った。何回も打ったが、どちらからともなく棒をそつと置くと、手を合わせていた。

罪ほろぼしに、お寺を建て、旅ゆく人にはお茶をふるまい、みずからの像を打たせる……。この大男の、やさしさ、そしてきびしさ。去年の夏、笠松の智恵庵で、あの熱心なおまいり、父の墓に誓ったあのことは。

その姿が、今の坊主姿の大男に重なりながら思い出された。五平には、まるで

夢のように思えた。

「どうぞ、ひと休みしてください。」

次に来た旅人を案内する言葉で、はつとわれにかえつた五平。連れの老人も同じだった。

二人はあとから来た旅人に話しかけている大男に、かるく会釈して、街道に出た。中山道と名古屋街道が合流する辻には、大男の建てた道標があった。

「左・京への道」という文字をたしかめながら二人は岐阜へとむかった。

旅人に親切な茶所。そして「うたれ坊」の話は、ますます評判になり、ひろまっていた。

おわり

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。